

【目的】

これまで実施してきた条例認知度調査において、特に20代以下の認知度が低いことから、大学生との共生のまちづくりについて考えるワークショップ等を通じて、若年層への周知啓発と意識醸成を図る。

【実施概要】

実施日	令和6年11月28日（木）	令和6年12月12日（木）
大学・学科	新潟大学 教育学部 特別支援教育専修 ほか	新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 社会福祉学科
参加人数	35名	13名
主な内容	障がいのある当事者・教授の対談	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク

実施日	令和6年12月19日（木）	令和7年1月10日（金）
大学・学科	新潟青陵大学 福祉心理子ども学部 社会福祉学科	新潟薬科大学 応用生命科学部 応用生命科学科
参加人数	48名	7名
主な内容	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク

【アンケート結果】

1. ワークショップを通じて、講義の内容や共生への認識を高めることができたか？



- 本人からしか聞くことのできない、生活する中で実際に感じていることを聞かせていただいた。自分では想像のできないことを感じていたり、バリアフリーになったから暮らしやすくなるという単純な話ではないということを知った。主体は誰なのかという点について考えるということを障害のある方と関わる上で大切なのだと思った。これが共生社会への理解につながる大事なことだと感じた。
- グループワークを行なったことで、自身とは異なる視点で物事を考えることができて、視野が広がった。

2. 若年層の条例認知度を向上に、どのような取り組みが必要だと思いますか？（複数回答）



【学校での周知啓発】

- 当事者の方をお招きして生の声を聞く機会を設けることで、障がいを持った人へ興味関心を抱いてもらうことが大切だと思った。
- 自分からは情報にアクセスしない人も、授業などで周知啓発してもらうことで情報に出会えるから。

【アート展示】

- 障がいを持つ方の中には、言語化が難しくコミュニケーションをとることが困難な人もいるため、そのツールとして、アートが適していると思った。

【メディアの活用】

- 若者は特にSNSに触れる機会が多いと感じるため。

3. 意見・感想

- 普通の授業では実際に障がいを持った方の意見を聞く機会がなかった。自分の意見ではなく障がいを持った方がどのように感じているのか、実際の声を反映させるために当事者の声や意見に耳を傾けていきたいと感じた。
- グループワークでメンバーと意見を交換しながら学んだことで、より深く条例を理解することができたと感じた。今後は私も新潟で暮らす一人としてこの条例を意識しながら生活していきたい。
- 共生条例の存在を初めて知った。今回のワークショップに参加して、障がいのある方の困り事を考えることで、理解を深められたと思う。
- 困難なこととその解決策について考えてみると、お金をかけなくても自分たちにできることは多くあることに気づいた。共生社会のまちづくりについて、今後も考え続けたい。